

1. 本校について

大東市立四条小学校は、大阪と奈良を分ける生駒山系の裾野にあり、「野崎参り」で有名な野崎観音を校区に含んでいる。大阪市内にも電車なら20分ほどで出ることができ、すぐ裏には飯盛山をはじめとしたたくさんの自然も残っている。2クラスの学年がほとんどの、全体で300名程度の比較的小さな学校である。130年の長い歴史の中で、子どもたちの活動のさまざまな場面において、人権の課題に自然に出会っていくことを常に意識してきた。

今回のレポートでは、2003年度の6年生(50名)が人権総合学習「Imagine ~ 私たちの将来・地球の未来 ~」を通して、自らの将来を切り拓く力・今ある課題をさまざまな視点や立場から考える力・情報を相手に効果的に伝える力を、どのようにしてつけていったかについて報告する。

2. 人権総合学習のポイント

本校は、主体的な「学び」のある魅力的な学校、子ども・保護者・地域の願いの上にたった学校を目指して、「開かれた学校づくり」や「教育改革」に取り組んできた。その大きな柱として、基礎基本の学力保障・人権総合学習・コミュニケーション能力づくりがある。

本校では、人権総合学習のポイントを、児童の発達段階に応じて次のように分けている。

- | |
|---------------------|
| 1・2年・・・遊び・自然・出会い |
| 3・4年・・・身近な課題・主体性・表現 |
| 5・6年・・・社会・人権・価値観 |

1・2年生では、生活科において遊びや自然との触れ合い、校区のいろんな方々との出会いを多く取り入れている。また、生き物や命など、その後の人間形成の大切な基礎となるテーマにも、積極的にとりくんでいる。この時期は、次の人権総合学習への準備期間として大変重要である。

3・4年生では、人権総合学習の入門期として、生活していく中で発見した身近な課題を考えていくとりくみを中心に行っている。そこでは、子どもたちの「やってみたい・考えてみたい」という主体性が大切にされ、様々な表現方法に触れる機会を多くつくるのが意識されている。

5・6年生では、いよいよ人権総合学習の発展期として、自らと社会との結びつ

きや様々な人権の課題について考えていくとりくみを中心となる。そこでは、今までに学んだことを総合的に使い、多くの価値観に触れることを通して、自らの価値観を構築していくことを目標としている。

どの学年においても、子どもたちの興味や関心を大切に、たくさんの人や価値観に出会わせながら、自らの課題を切り拓いていく力を育てていこうという基本的な考え方は変わらない。

3. これまでの活動

この学年のこれまでの生活・人権総合学習でのテーマは、次のとおりである。

< 1年生 >

みんなで作ろう、みんなで遊ぼう

< 2年生 >

一人ひとりが遊びの達人

< 3年生 >

野崎のいいところ、見つけ隊

< 4年生 >

つなげよう！ハートTOハート

< 5年生（6年生の一学期まで継続） >

USJ！～うまいもん・すごいもん・ジャジャジャジャーン！～

お年寄りや年下のお友だちとの遊びを通して、受け継ぎ伝えていく大切さや自分を表現する喜びを感じてきた。野崎の山について調べる中で、山の達人から生き物の知恵や自然の奥深さについて学び、自分が住む地域が大好きになった。自分の体の気になる部分について調べる中で、自らの心や体を見つめ、お互いのことをより深く知っていくことができた。

5年生では、「野崎の新しい名物をつくって、観音参りに店を出そう！」と、地域の新名物づくりに取り組んだ。全国の名産品に携わるたくさんの方のアイデアや努力に学びながら、保護者や地域の方にも協力していただき、みんなの力で作り上げることができた「野崎桜もち」。5月に行われた「野崎参り」当日には、開店前に行列ができるほどの大盛況となり、1301個を見事に完売することができた。

情報収集や企画会議を通して、自分がほしい情報や相手に伝えたいポイントを選びながら効果的にまとめていく力をつけてきた。みんなで一つのゴールに向かって真剣になったからこそ、自分のがんばりを再確認でき、また、周りの友だちのがんばりも温かくシビアに見ることもできてきた。自分たちが本気で取り組んだことは、世の中で立派に認められるという実感も味わってきた。

また、メディアリテラシーの観点からのとりくみも、たくさん取り入れた。最初に、メディアのつくられ方やCM分析、映像やキャプションのもつ力などについて学んだ。そして、学校給食でお世話になっている牛乳会社のCMをつくることをと

おして、実際に CM として使っていただけることにはならなかったが、メディアを使った効果的な表現や、客観的にメディアをとらえる力をつけることができた。ここでは、情報機器の操作法にとらわれるのではなく、表現の多様性と情報にかかわる課題について学ぶことを、学習の中心としている。

4 . 6 年生になって

これまでの学びをもとに、6 年生でのテーマのねらいを次のように設定した。

- ・ 平和や様々な人権の課題について学び、将来を見通した自分なりの考えをもつ。
- ・ 仲間を大切にしながら、ともに課題を解決していく。
- ・ 相手のことを考えて、情報を効果的に伝える。

まずは、子どもたちのかかえている課題やもっている問題意識を把握しようと、いろんな観点からの活動を取り入れた。

最初に、『自分を生きる 2 1』（大阪府人権教育研究協議会）にあるものを、子どもたちが身近に感じている事例を盛り込んでつくった「波乱万丈！人生すごろく」をした。そこでは、進学や就職、結婚や出産などといった、これから出会うであろう人生のターニングポイントがたくさんちりばめられており、その都度、自分がどの道を選択したか書き留めた。あとでの振り返りをおして、自分とは違うたくさんの人生観に出会うことができた。

次に、ドラえもんの新しいアイテムを考える「ドラえもんの 4 次元ポケット」をした。自分があったらいいなと思うアイテムを自由に考える活動なので、とても楽しそうにアイデアを形にしていっていった。そこでの振り返りでは、なぜそのアイテムがほしいかという、裏に隠れていた一人ひとりのなやみや願いを出すことができた。

そして、自分の将来を 5 年ずつ刻みながら想像し、自分たちの 20 年後までの「人生設計図」をつくった。かなり具体的なところまで考えながらつくる子もいれば、現実からかけ離れたことをイメージする子もいたが、おぼろげながら自分なりの将来像に出会うことができた。

そのころ、広島修学旅行に連なる平和学習や部落問題学習も進めていた。戦争や命、差別といった様々な問題に向き合うことをとおして、自分自身を振り返ったり、友だちと思いを重ねたりすることができた。お家の方にも、学習にリンクする形で様々な支援をしていただいた。これらのことがその後の人権総合学習を進めるにあたってのベースとなっていっていったのは、確かである。

5 . 「私たちの将来」VTR

できあがった「人生設計図」の中から、いろんな人生も含まれそうな広がりのあるものを 8 人ピックアップした。その子たちの人生設計図をもとにして、関係のあ

りそんなものでグループをつくり、実際の職場に行って聞き取りや調べ学習をした。

そして、事前に見ておいた明治生命のCM（あなたにあえてよかったシリーズ）の構成を参考にしながら、30秒CM形式のVTRにまとめた。事前にCMを見せたのは、単につくり方を学ぶだけでなく、そのCMがもつ強いメッセージ性を感じとり、自らのVTR制作にいかしてもらいたかったからである。

できあがった主なVTRの内容は、次のとおりである。

< プロ野球チーム >

プロ野球選手を目指す子が、練習を重ねてメジャーに行く

< ペットショップチーム >

小動物が好きな子が、資格をとる勉強をがんばり、店を開く

< 芸能界チーム >

オーディションに落ちた子が、スカウトでデビューする

< 車チーム >

車の整備士を目指す子が、経験を重ね、33歳で一人前になる

< 専業主婦チーム >

バイト先で出会った人と結婚し、家族4人で幸せに暮らす

発表会では、障害者による身体表現の劇団を主催されている方に、ゲストとして来ていただいた。そこで、障害者問題をはじめとしたいろんな人権の視点からのアドバイスをしていただいた。教師も同じように、次の課題に結びつくいろんなアドバイスを入れた。

「世界で本当に認められているスポーツ選手は、社会にいろんなことをしている」、「人間に飼われているペットって、本当に幸せなのだろうか」、「華やかそうに見える芸能界も、本当にしたいことだけでできているのではない」、「大きい会社がえらいのではなく、小さな会社の技術が最先端をつくっている」、「専業主婦が将来の夢に入るのは日本だけで、外国は働くことで一人前として認められる」など。

今までの発表会などではほめられることが多かった子どもたちだったが、この日はいつもと違うまわりの反応にとまどっていた様子だった。しかし、次第に、動物の命の重さについて意見を出し合う子どもたちや、生活を振り返って浮かんできたお家の人の姿を発表する子どもなどが出てきた。子どもたちの視点を大きく広げ、考えを深める大切な日となった。

6. 学年討論会「地球で一番かしこいのは人間である」

今までの学習をとおして、いろんな価値観に触れることができた。とくに、「私たちの将来」VTR発表会で出てきた「命の重さ」について、子どもたちの考えが大きく揺れているのがわかった。そこで、子どもたちの視点や考え方を一度整理するためにも、学年で討論会をすることにした。

討論会で考えを深めたかったのが、自分たちには何かを考え行動することができ

るという、人間のもつ可能性についてだった。これは、「自らがどう生きるか」につながる大きな価値観である。そこで、今まで学んだことをもとに、子どもたちが真剣に考えられる討論のテーマを探した。

最初に考えたのが「地球で一番大切なのは人間である」というテーマだった。実際に子どもたちに聞いてみると、一人を除いたすべての子どもたちが「NO」を選んだ。もう少し意見が分かれると思っていたのだが、今まで子どもたちが学んできたことがこの「NO」につながっていると考えると、とてもうれしくなった。しかし、これでは討論になりにくいので、新しいテーマを考えた。

そこで出てきたのが「地球で一番かしいのは人間である」というテーマだった。「かしい」は、いろんなとらえ方ができる言葉である。そのとらえ方しだいで「YES」・「NO」のどちらの立場にも立てる。しかし、それもすべて人間のもつ可能性についての話である。子どもたちに聞いてみると、子どもたちはたくさんの自分の中での葛藤を見せた。そして、ねらいどおり、最終的にほぼ同数のグループに分かれた。

この討論会では、たくさんの情報からいるものを選択し、自分の主張をしっかりと言語化して、より分かりやすく相手に伝えることが大切だと考えた。そこで、なぜ自分が「YES」・「NO」を選んだかという理由を確かめることからスタートした。再び、わからないことについて聞いてきたり、説得できるように学んだことを言いかえたりしながら、発表を組み立てていった。相手チームが何を考えているかは、絶対に秘密だった。その相手が何を言っても返せるような発表の組み立て方を、しっかり考えていく姿があちこちで見られた。

討論会で明らかになっていく人間のもつ「あさはかさ」。しかし、同時に人間のもつ「可能性」についてもあつく語られた。両チームとも、相手の論点に対してしっかりと事実をもって反論していくことができていた。見に来ていただいた大学の先生には、「今、みんなが話し合ったことは、実は、世界中の大人が集まって真剣に考えていることといっしょなんや。それを、みんなは小学校6年生でしているなんて、すごいことなんやで」と、ほめていただいた。最初に「YES」・「NO」という立場の違いはあったが、みんなが「人間のもっている力は使う人間しだいだ」、「私たちには考え行動する力がある」と強く認識できた討論会になった。

7. メッセージ VTR「Imagine～私たちの将来・地球の未来～」

またいっそう考えが深まった子どもたちに、もう一度自分たちの将来を考えさせた。6年間の集大成として、今まで学んだことをメッセージ VTR「Imagine～私たちの将来・地球の未来～」にまとめる活動に入った。このメッセージ VTR は卒業制作を兼ねており、卒業式で参加者に発表することにした。自分たちで何度もシナリオを書き直し、自分たちのメッセージがきちっと伝わるか真剣に考え、お互いに協力しあいながら撮影に入っていった。

できあがった主なメッセージ VTR の内容は、次のとおりである。

< 動物の命チーム >

捨てられ虐待される動物、人間と同じ命の重さをもっている
<世界の食文化チーム>
韓国の犬食の効能と歴史、屠場設備の充実が理解につながる
<差別チーム>
男女や人種による差別、正しい理解をもつことが大切
<人の命チーム>
仲間はずれと差別、間違ったことを指摘することの大切さ
<スポーツと国際交流チーム>
戦争でなくなったスポーツ選手、スポーツは平和の薬

「虐待を受けた動物は、心に大きな傷を負うんだ。人間と同じなんだよ。」「韓国の伝統料理として敬意を払って食べてほしい。牛や豚と同じようにキッチンと法律を整える必要がある。」「個人の能力を正しく見なければならぬ。正しい知識を学ぶことが大切だ。」「同じ人間やろ。そんなんおかしいやん。よっしゃ、言いに行こう」「アメリカの兵だ。撃て！...あっ、あれは！（メジャーでいっしょだった選手がいる）嫌です！...なにー、おれに貸せ！」自分と社会の関わりについての考えがしっかり込められた、そして、見る人にもそれを考えさせる力をもった強いメッセージが込められた、そんなメッセージ VTR ができあがった。

当日、自分たちのメッセージ VTR のあとに、自分たちがどういう気持ちでつくってきたかを堂々と話す子どもたち。他のチームのメッセージ VTR も食い入るように見つめる子どもたち。参加者からは大きな拍手がおくられた。

8 . 人権教育としての情報教育

情報教育には、次のような大きく 4 つの側面があると考えられる。

<識字力としての情報教育>
デジタルデバイスに対する学力保障・進路保障
<豊かな学びをつくる情報教育>
あらゆる教育活動で子どもの学びを豊かにする
<ネットワーキングとしての情報教育>
いろんな人と学びや人権課題について発信・意見交換する
<メディアリテラシーとしての情報教育>
情報を批判的に読み解き、積極的な社会参加につなげる

（大阪府人権教育研究協議会情報教育プロジェクトより）

今回、今まで積み重ねてきた情報教育に関する力が、学びにとてもつながっていた。情報機器を使えるようになること、メディアの仕組みを知ることとおして、どんどんとしたいことが形になってくる。メディアをつくることをとおして、メデ

ィアを客観的に判断する力がついてくる。そして、伝えたいメッセージが人と人をつないでいく。

このとりくみを進めるにあたって常に意識したのは、自分たちの学びを振り返られる、他の人に思いを伝えてつながれる、そんな情報教育が大切だということである。そして、何よりも忘れてはならないのが、子どもたちが真剣に考えたいことや本気で伝えたいことが学習の中にきちんと位置づいており、それを支えるものとしての情報教育がしっかり進められることが大切だ、ということである。

情報教育も、やはり、人と学び人から学ぶものである。

大阪府大東市立四条小学校 2003 年度 6 年人権総合学習

Imagine ~私たちの将来・地球の未来~

全 70 時間 (1 学期の 40 時間は 5 年次のとりくみを継続)

...コミュニケーション力の育成

